

3/23/2010 発行

**生物多様性と用水路**

**こだいら 水と緑の会**

**代表 馬場 政孝**

今年 10 月に名古屋で生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) が開催される。

生物多様性というのは、地球上に多くの生き物が相互に関連をもって存在している事実をいう。地球上には 1000 万を超える生物種が生存しているといわれる。それぞれの種においても遺伝形質が異なる個体が多様に存在し、生育場所の変化により適合的な遺伝形質をもった個体が生き残ってきた。また、生物の種や個体は個々ばらばらに存在しているのではなく、一定の環境の下で相互に依存しあい、競合しあいながら生態系をつくって生きている。生物多様性は、この生態系と一体のものである。

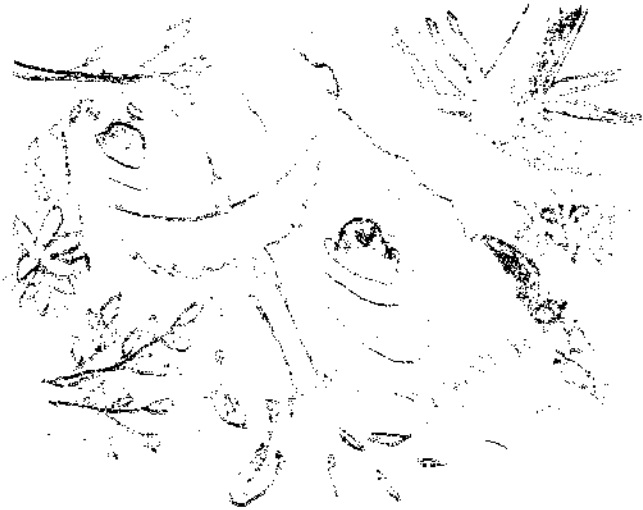
よく、昭和 30 年代 (1955~64 年) が日本の自然や生活環境の原風景として語られる。確かに、あちこちに水をたっぷり貯めた沼や用水路があったり、そこには葦が生えてトンボやホタル、水の中にはフナ・ハヤ・ドジョウなどが普通に見られた。家は木や泥などの自然素材で造られ、鎮守の森にはシイやケヤキの大木があつてセミやカミキリムシ、玉虫・コガネムシ・カブトムシが蜜を吸い、夜になるとフクロウが鳴いていた。近郊には田んぼが広がり、カエルやザリガニがいっぱいいた。まさに「トトロ」の世界である。おそらく江戸時代、いや、古代以来の日本の原風景であろう。それが石油化学工業や電化製品などの大量生産の発達、コンクリートで地面を覆う車社会への移行によって、私たちはこの原風景のほとんどをうしなってしまったのである。

私たち人間も生き物の一種として、他の生物と有機的関連をもった生態系の中で生きている。私たちの周りで昆虫や魚や鳥たちが生育しにくいという現実、実は私たちも生きにくい環境の中にいるということを意味している。生物が自然に多様に生きられる環境をより増やしていくことが、私たちが生命体の 1 種として快適に過ごしていくために是非とも必要なことなのである。

トキがテンに襲われて大きな話題になっている。日本の原種は絶滅し、中国から贈ら

水田から大切に育てられたトキが一度に9羽も食べられ、エサから無理もない。しかし、トキは以前は当たり前のようにいたのである。その時は羽根をとるために殺したり（その昔は食料でもあった）、トキの餌になるカエルやドジョウが農薬で田んぼから姿を消しかけたときに何らの手当てもしなかった。気がついたときには日本原種が絶滅しかかっており、結局守りきることはできなかった。愚かしいと言えばそれまでだが、実は人間はこのようなことを繰り返してきた。身近に当たり前にいるような生き物は粗末に扱い、いなくなると大騒ぎをする。かつて田んぼに普通にいたメダカはいまや絶滅危惧種となり、今日スズメが少なくなっているといつてニュースになっている。

当たり前にいる生き物が大切であり、彼らによりよく生きられる環境を生態系として作り出し、保護することが大切なことである。玉川上水の「上水小橋」の下流域で、掘割の底部や側面に生育する柘植・ヤツデ・アオキなどの雑木を、景観が悪いという理由で切ってしまった結果、小鳥があまり見られなくなってしまった。季節ごとに異なる多様な美しい渡り鳥たちが啼き飛び交う楽園だったのに、寂しくなってしまった。また、隠れる場所を失った小魚も少なくなってしまう。人間の目先の勝手な都合が優先し、生態系を配慮しないで無残な光景を作りだしたものである。行政の開発行為における近視眼的な人間中心主義はまだまだ根強く、人間を生態の中に包み込まれた生命体と認識しない乱暴な開発行為はひいては人間の自然的本性の喪失をもたらし、人間の命の破壊につながっていることを知るべきである。



生き物にとって水はなくてはならないものであり、生態系にはほとんど水場が関係している。小平において水場と言えは玉川上水と用水路が最重要であろう。この両者とも本来の役目はなくなり、ひところは放置されるにまかされていたのだが、これからは小平の生態系を作り出す大切な場とする新たな役割が強調されるべきである。トンボやホタル、カエルなどは幼少期を水中で過ごす。ここに有機的な生態系を恒常的に作り出してやれば、生き物たちは必ずやってきてくれる。そのような生き物たちは私たちの命とつながっているのである。生態系にとって大敵が2つある。1つはコンクリートを使った整備であり、もう1つは流れをいとも簡単に止めてカラカラにして生き物の息の根を止めてしまうことである。

COP10が日本で開催されるのを機に、生物多様性という観点を街づくりの根幹に据えてほしいものである。

# 平成 21 年度会計報告

## 収入

前年度繰越金	11,420
会費	38,000
催事売上金	1,600
(グリーンフェスティバル 冊子販売)	

## 支出

振り込み手数料	1,080
催事準備金	4,745
(グリーンフェスティバル)	
参加費	2,000
(小平ネット・自治学校)	
消耗品費	4,630
(植栽用品・会報用コピー用紙等)	

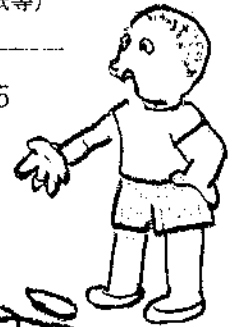
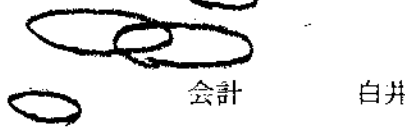
小計 ① 51,020

小計 ② 12,455

① - ② 51,020 - 12,455 = 38,565

平成 22 年度繰越金 38,565 円

以上の通り相違ありません。



会計 白井 進

会計監査 馬場 淑子



☆ 平成 22 年 4 月から新しく会計の担当が 佐藤 忠彦氏 に変わります。白井さん御苦労さまでした。

会員各位様へ

平成 22 年度の会費の納入をよろしくお願いいたします。皆さまからの会費が会の活動を支えています。

水と緑のどちらが大切かという、水の方が大切だと思います。なぜなら、水がないと緑は生まれず、生き物は育ちませんから。

人間の体の三分の二は水分だそうです。他の動植物も体内にはかなりの水分があります。くらはげは極端で、大部分が水分だそうです。砂漠の動植物も、それぞれの知恵で体に水を蓄えています。

緑という色は目に一番良いそうです。逆に赤などは良くないらしいのです。色をじっと見つめていると、赤の場合目が変になりますから、それは本当だと思います。若い頃先輩に言われたことがあります。「疲れると目に来る。そうしたら遠くに繁る森の緑を眺めなさい。気が安らいで治るから。」と。これは私にも当てはまりました。

環境の悪化は先進の人類がもたらしたものです。後進的な生活からは環境破壊は生じません。江戸時代の日本は化石燃料を使わなかったし、今のような環境問題はありませんでした。深い森林は大気を浄化してよい環境を保ちます。大規模な伐採は環境を壊します。

ニュージーランドを旅したことがあります。広大に開けた緑の牧草地に羊が群がっていました。観光路線に巨木の森があり、案内人は天にも届きそうな巨木について自慢げに語っていました。広大な牧草地は緑の面です。森林の緑は立体です。面と立体では緑の意味に雲泥の差があります。たぶん、西洋人が入植する前は、現在の広大な厚みのない緑は深い立体の緑だったことでしょう。この国こそ森林の伐採大国、環境破壊大国だと思ったものです。広大な平面の緑は、環境保全の模範と錯覚させるに十分な光景です。しかし考えてみれば、他の国も大体同じです。日本もそうです。ニュージーランドを名指したのは体験したからです。悪しからず。



我が小平市は、昔は森林地帯で自然の川がなく、人が住みにくいところだったそうです。江戸時代に用水路ができて人が住み始めたそうです。市内に小川という地域がありますが、多分そこを流れた用水路が小さな川であったので、その付近に人が住みついて小川と呼ぶようになったと想像しています。今は小平市も森林が減り、都市化が進み、生活用の水道が普及して、用水路の多くは塞がれて肩身を狭くしています。その小平市

に私は住み、車を持ち、生活しやすいと思っていますが CO2 を出すなど、自己矛盾と  
思いながら環境保全の重要性を唱え、用水路にごみを捨てる人を憎むことができず、「こ  
だいら 水と緑の会」の皆さんと、用水路の清掃に参加しています。会に入ってまだ日  
が浅いので、知らないことが多く勉強中です。小平の地に用水路を導いた昔の人を敬い  
ながら、そこに昔のように水と緑と生き物が戻るように願って活動を続けています。

## 用水路から水と緑を考える

佐藤 忠彦

2008 年の秋から、青梅街道駅から 3 分のところにある K 氏の広さ約 40a (1200 坪)  
の畑で、菜の花や小麦を作って美しい農地を守る取り組みが始まり、参加しております。  
K 氏の家を訪ねると庭に用水路が通っており、畑にも用水路が通って水が流れておりま  
した。これは何を意味するのだろうかと考えました。

玉川上水や野火止用水については日頃から目にしており、資料も読みましたし、実地  
に散策もしていましたが、用水路については私の意識の中にはありませんでした。パ  
ソコンで調べてみますと小平市内には約 51 km もの用水路が残されていることが分か  
りました。玉川上水は約 43 km、野火止用水は約 25 km で、これより長いのです。そして  
1656 年に小川村の開祖、小川九郎兵衛により玉川上水から分水して用水が作られ、新  
田開発・小川村の開拓という 350 年の歴史的遺産が用水路であることを知りました。

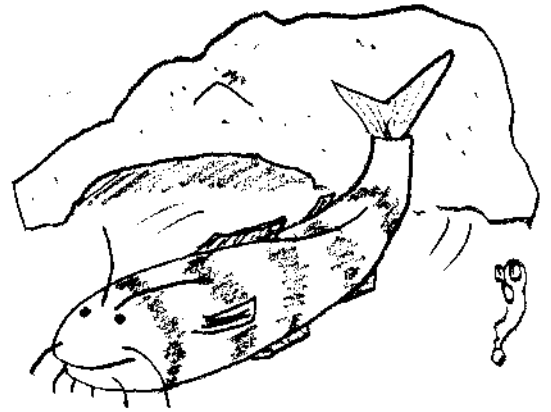


小平中央図書館資料室には「小平市用水路活用計画（平成 7 年 3 月）や「用水路 昔  
語り 1~3」があり、小平市水と緑と公園課で「小平市用水路図」と「小平市用水路活  
用計画」のパンフレットをいただきました。用水路は飲料水をはじめとする生活用水と  
して掘削されたが、井戸や水道の普及によって初期の使命は終え、都市化の波にさらさ  
れ放置されていたが、近年になって水・土地の保全、大気の保全、そして緑の空間の保  
全など生活環境機能として見直されていることが分かりました。

私は環境問題に関心があります。小平市の農村風景による良好な住環境、水と緑を考  
えると農地の保全、都市農業に関心が及びます。用水路はその築造の目的から、農地の  
裏手を流れ、2 間幅と狭いものがほとんどです。このようなことから用水路の現代にお  
ける機能・活用を切り口として、農家の方々と接点を持ち、都市農業を考えていくこ  
とができないかと思案しております。

## ギバチ通信

昨年の5月に購入したギバチ2匹。体長3cm程で  
昼間は石の陰でおとなしくしていますが、夜はビシャ  
ビシャと泳いでおりました。なかなかやんちゃらしく、  
気が付いたら或る朝1匹は死んでおりました。縄張  
り争いをしたようです。その後大きな水槽に移しまし  
たが、どんどんと成長し、今では20cm程もあります。  
そのせいか近頃は昼でも大胆に泳ぐ姿が見られます。



## 「用水路パンフレット」作りのプロジェクトが始動！

この4月から小平市内の小学4年生を対象とした「用水路パンフレット」を作ります。  
カラー印刷・A3判中折れ・8ページで、小平市の市民活動支援事業の助成金を受ける  
予定でいます。並行しての公開学習会開催など計画も多岐に亘ります。現在原稿の検討  
をしているところですが、多くの会員の参加を望んでいます。ご一緒にいかがですか？

**年間の主な予定 4月 親水公園・小川緑地 水生植物の植栽**

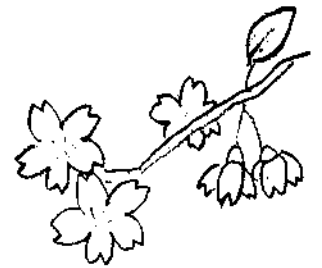
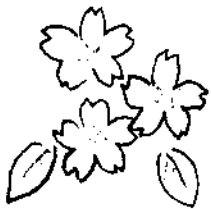
**5月 グリーンフェスティバル参加**

**6月 全国一斉身近な水質検査参加**

**9月～ 用水路パンフ印刷・発行**

**毎月第三水曜日 午前 グリーンロード親水公園清掃**

**第四水曜日 夜 定例会 中央公民館学習室3**



当会のHPが新しくなりました。是非ご覧ください。

## 編集後記

玉川上水沿道のイヌシデの根元で「カンスゲ」が花を咲かせています。花茎の先に茶色の雄  
穂があり、その下の黄緑色の毛玉のようなのが雌穂です。地味な野草ですが、春の訪れを真っ先  
に告げてくれます。このところの暖かさでオオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウ・ホトケノザ・  
スマレが色とりどりの可愛い花をつけ、日を楽しませてくれています。こんな豊かな自然を日常  
的に味わえる幸せを痛感します。

グリーンロード親水公園に2本、小川緑地に1本平安紅枝垂れ桜の苗を植えました。親水公園  
は土壌が悪く生育が危ぶまれますし、悪戯で枝を折られたり不必要に切られたりしないか心配で  
すが、大きく成長し道行く人々が美しい花を愛でてくれるようになると思います。

発行 こだいら 水と緑の会

042-345-6772 馬場

<http://www009.upp/so-net.ne.jp/water-green/>